

＜同時発表＞

北海道開発局、東北地方整備局、
関東地方整備局、北陸地方整備局、
中部地方整備局、近畿地方整備局、
中国地方整備局、四国地方整備局、
九州地方整備局

＜配付先＞

中部地方整備局記者クラブ
＜問い合わせ先＞
中部地方整備局
企画部企画課 中島、前田
電話：052-953-8127（直通）

平成30年11月22日
総合政策局公共事業企画調整課
大臣官房公共事業調査室

ふるさと

平成30年度手づくり郷土賞 魅力ある地域づくり 23件を選定しました！

国土交通省は11月12日、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を推進するため、全国各地から応募のあった活動の中から、今年度の「手づくり郷土賞」として、23件（一般部門20件、大賞部門3件）を選定しました。

また、手づくり郷土賞の受賞者による活動報告を通じて全国に優れた取組が広がることを目的に、受賞記念発表会を12月16日に開催します。

～地域づくりの一層の推進を目指し、12月16日に受賞記念発表会を開催～

■平成30年度「手づくり郷土賞」の選定

11月12日に有識者による選定委員会を開催し、全国各地から応募のあった53件（一般部門47件、大賞部門6件）の中から、優れた活動23件（一般部門20件、大賞部門3件）を「手づくり郷土賞」として選定しました。 ※活動の詳細は、資料1、資料2をご覧ください。

今後、各地方整備局等を通じて、選定団体への認定証の授与式が行われます。授与式の日程等については、改めて各地方整備局等のホームページでお知らせします。

■「手づくり郷土賞受賞記念発表会 ～グランプリ2018～」の開催

手づくり郷土賞に選定された優れた活動を広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が推進されることを目的に開催します。

1. 日 時：平成30年12月16日（日）12時30分～16時10分（予定）
2. 場 所：東京国際交流館プラザ平成 3階 国際交流会議場（東京都江東区青海2-2-1）
3. 内 容：1）平成30年度「手づくり郷土賞」選定団体による活動プレゼンテーション
2）グランプリ（一般部門、大賞部門）の発表、講評

〔 有識者からなる手づくり郷土賞選定委員会が審査し、一般部門、大賞部門それぞれのグランプリを決定します。 〕

4. 参加申込み

- ・参加ご希望の方は、12月10日17時までに申込みが必要です。
（定員200名・先着順）※定員になり次第、締め切らせていただきます。
- ・参加申込みは下記サイトから。QRコードからもアクセスできます。
<https://www.vmi.co.jp/jpn/consulting/seminar/2018/furusato2018.html>



○問い合わせ先

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 菅、井出

TEL 03-5253-8111（内線24563、24536）、03-5253-8912（直通） FAX 03-5253-1551

平成30年度 手づくり郷土賞 選定結果

資料1

<一般部門：20件>

No	地整等	都道府県	市区町村	応募案件名	応募者	
					地域活動団体	社会資本管理団体
1		北海道	札幌市	新川夢の桜並木事業 ～先人達の夢を実現～	新川さくら並木連合町内会	—
2	北海道	北海道	旭川市	地域を育てる緑の道 ～未来を描く物語仕立ての社会資本の活用～	緑道ワークス	旭川市
3		北海道	増毛町	「増毛山道」の復元と保存による地域活性化	特定非営利活動法人 増毛山道の会	—
4	東北	岩手県	一関市	水害常襲地からの脱却！川との戦いから川とのふれあいへ	特定非営利活動法人 北上川サポート協会	—
5		岩手県	陸前高田市	名勝・高田松原の再生をめざして	特定非営利活動法人 高田松原を守る会	岩手県、 陸前高田市
6		山形県	西川町	月山志津温泉雪旅籠の灯り ～雪は宝～	月山志津温泉雪旅籠の灯り実行委員会	—
7	関東	千葉県	市原市	養老桜とアートの小径プロジェクト(文化と芸術の里づくり)	まちづくり桜植樹プロジェクト (桜さんさん会)	—
8	北陸	福島県	会津若松市 喜多方市 会津坂下町 湯川村 会津美里町	会津・阿賀川における「川に遊び、川に学ぶ」を次の世代へ	阿賀川・川の達人の会	—
9		岐阜県	飛騨市	レールマウンテンバイク「Gattan Go!!」 ～自転車とレールで風になる～	特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク	—
10	中部	岐阜県	美濃市	美濃和紙あかりアート展	美濃和紙あかりアート展実行委員会	—
11	近畿	京都府	福知山市	「雲原砂防イベント」(よみがえれ地域の力「探訪 雲原砂防」)	「雲原砂防イベント」実行委員会	—
12		京都府	長岡京市	京都おとくに地域の情報発信と魅力ある街づくり	特定非営利活動法人 京おとくに・街おこしネットワーク	—
13	中国	島根県	出雲市 雲南市 飯南町	子ども達が取り組む河川環境保全活動から始まる地域づくり ～斐伊川・神戸川流域環境マップづくり～	特定非営利活動法人 しまね体験活動支援センター	—
14		岡山県	玉野市	宇野港を舞台とした玉野の賑わいづくり ～UNOICHI 海が見える港のマルシェ～	特定非営利活動法人 UNOICHI実行委員会	—
15	四国	徳島県	三好市	地域の駅から世界の大步危駅へ	JR大步危駅活性化協議会	—
16	九州	大分県	日田市	上下流の人々をつなぐ筑後川源流の保全活動 ～植樹交流で下釜ダム湖のある地域を心の故郷へ～	特定非営利活動法人 下釜ダム湖と森の会	日田市、 福岡市
17		大分県	豊後高田市	花とアートの岬「香々地」 ～長崎鼻を守るため海と花の景観を創出～	特定非営利活動法人 長崎鼻B・Kネット	豊後高田市
18		宮崎県	宮崎市	大塚台団地の里山再生～荒れ果てた都市部の里山再生～	大塚台緑地林里山整備実行委員会	宮崎市
19		宮崎県	延岡市	川坂湿原を生かした地域おこし ～霞堤とともに歩む～	川坂川を守る会	宮崎県
20		宮崎県	串間市	旧吉松家住宅を中心とした大正ロマンのまちづくり ～レトロ路面電車でまちをつなぐ～	くしままちづくり協議会	串間市

<大賞部門：3件>

No	地整等	都道府県	市区町村	応募案件名 ※()は一般部門等の受賞年度	応募者	
					地域活動団体	社会資本管理団体
1	北海道	北海道	小樽市	小樽雪あかりの路 (平成16年度)	小樽雪あかりの路実行委員会	小樽市
2	中部	三重県	伊勢市	伊勢河崎・町並みと川を生かしたまちづくり ～伊勢河崎商人館を核とした暮らしのデザイン～ (平成22年度)	特定非営利活動法人 伊勢河崎まちづくり衆	—
3	中国	山口県	岩国市	蘇った歴史の道 岩国往来 (平成23年度)	岩国往来まちづくり協議会	岩国市

No. 1 (北海道・札幌市)
新川夢の桜並木事業 ～先人達の夢を実現～



約700人によるさくら並木清掃

地元小学生への出前授業

<活動内容>

「特色のない地区に何か誇れるものを」と平成10年に町内会を中心に2800万円の寄付を集め、二級河川新川水系の右岸に地域住民400名の手により、延長約7.5km755本の桜の植樹を行い、維持管理を継続。翌年から毎年、延べ1500名が訪れる音楽祭や300名規模のウォーキング大会などのイベント開催や地元小学校への出前授業など実施し、郷土愛の環境づくりを行っている。運営の殆どを地域住民が携わる20周年ライトアップ事業を実施するなど、町内会活動が停滞する団体もある中、地域づくりを超えた取組を行っている。

<地域活動団体>

新川さくら並木連合町内会

No. 2 (北海道・旭川市)
地域を育てる緑の道
～未来を描く物語仕立ての社会資本の活用～



ガイド養成ワークショップの様子

水やり地域の子供達が活躍

<活動内容>

昭和50年代以降、歩行者が減少する状況の中、「市民にとってかけがえのない道」にしたいとの思いから活動を始め、H27年にアダプトプログラム協定を締結し、植栽柵の水やり等の維持管理、ワークショップや緑道文化まつり(約250人来場)の開催など住民自らが街づくりを積極的に取り組むことで、次世代を担う若年層が関心を持ち、多くの市民や観光客等の憩いの場として七条緑道が活用されている。また、七条緑道の魅力が再注目されたことで歩行者の回復や沿道の出店など地域の活性化に貢献している。

<地域活動団体>

緑道ワークス

No. 3 (北海道・増毛町)
「増毛山道」の復元と保存による地域活性化



山道維持管理のための笹刈作業

トレッキングツアーの様子

<活動内容>

増毛山道は、江戸時代末期、ロシア南下政策に備え、松前藩の命を受け約38kmの山道を開削し、地域の重要な交易道路として利用されていたが、海岸線道路等の整備により、昭和43年には地図からも消えてしまった。この山道をH28年に全線復元し、草刈り等の維持管理、遺構の保存活動を実施するとともに山道体験トレッキングツアー、地元の小中学生を対象とした出前授業など地域の愛着を深める活動を行っている。山道全線が現在に遺され、復元できた増毛山道は希少な山道であり、歴史的な価値は大きい。

<地域活動団体>

特定非営利活動法人 増毛山道の会

No. 4 (岩手県・一関市)
水害常襲地からの脱却！
川との戦いから川とのふれあいへ



川の流れ方、助け方の勉強会

北上川流域交流Eポート大会

<活動内容>

一関市川崎町は、川からの恩恵を受けている一方で水害常襲地帯でもあった。そのため、川に対するマイナスイメージが強いものとなり、水辺に親しむ機会が薄れてきた。そこで、「川との共生」を目指そうという想いから活動を開始し、地域住民と共に水辺創造活動(水生生物調査等)や環境保全活動(清掃活動等)、自然学習活動(カヌー体験等)等の多岐にわたる活動を行っており、中でも北上川流域交流Eポート体験はEポート大会としての規模は日本一であり、多くの参加者が水辺に親しむ機会へと繋げている。

<地域活動団体>

特定非営利活動法人 北上川サポート協会

No. 5 (岩手県・陸前高田市)
名勝・高田松原の再生をめざして



高田松原再生植樹祭

高田松原再生講座

<活動内容>

東日本大震災前から任意団体として高田松原海岸の松林維持管理活動を続けていたが、震災後にNPO法人に移行し、高田松原の再生のため精力的に活動を行っている。支援団体やボランティアと協力しながらの植樹祭(H29 3回のべ584人参加)の開催の他、「高田松原再生講座」の開催(140人参加)、「わたしの高田松原作品コンクール」(160作品)の開催等を通じて、高田松原再生への関心拡大に寄与している。また、これらの活動を通じて、陸前高田市の交流人口拡大に貢献している。

<地域活動団体>

特定非営利活動法人 高田松原を守る会

No. 6 (山形県・西川町)
月山志津温泉雪旅籠の灯り ～雪は宝～



学生ボランティアによる雪旅籠製作状況

多くの人が訪れる雪旅籠

<活動内容>

豪雪地帯である西川町において、生活から排除するだけだった雪を有効活用し、当時の六十里越街道の宿場の町並みを再現するイベントを開催。地元旅館組合や町とつながりのある大学等にも協力してもらい運営している。県内外から多くの参加者が訪れ、これまでに13回目を迎え、昨年度は5,700人の来場者があった。大学からは、雪旅籠の安全性・デザイン性等の助言を受けつつ、製作にも学生ボランティアとして携わり、卒業後は友人・家族と訪れるなど、継続・発展したイベントに繋げている。

<地域活動団体>

月山志津温泉雪旅籠の灯り実行委員会

No. 7 (千葉県・市原市)
 養老桜とアートの小径プロジェクト
 (文化と芸術の里づくり)



<活動内容>
 永年荒れていた河川沿いに、桜並木と芸術的オブジェを設置し、「文化と芸術の里づくり」をするため、平成17年2月に当会を設立。桜の植樹は約2.2kmに約200本、約8年間かけて行った。現在は、桜の間に芸術的オブジェの設置に取り組んでいる。また、近隣の小中学校と協力し、子ども達が作成した、桜や河川沿いの美しさを詠った詩歌の紹介看板を設置している。30回/年の草刈り等も行い、美しい景観を保つことで、散歩やサイクリングをする人が増えている。

<地域活動団体>
 まちづくり桜植樹プロジェクト(桜さんさん会)

No. 8 (福島県・会津若松市、喜多方市、会津坂下町、湯川村、会津美里町)
 会津・阿賀川における「川に遊び、川に学ぶ」を次の世代へ



<活動内容>
 川は危ない、汚いから近づくなという時代に育った父母が川遊びを知らないために子供達が河川で遊ぶことができず、せっかく整備された河川利用施設も宝の持ち腐れであった。こうした現状を変えるため、地域の大人達を川の指導者として育成する「会津めだか塾」や、子供達に川遊び等機会を設ける「阿賀川・子供アドベンチャークラブ」の開催、総合学習支援などを行っている。設立から20年が経過し、過去の支援対象だった子供達が大人になって入会するなど、20歳代からの会員も増えてきている。

<地域活動団体>
 阿賀川・川の達人の会

No. 9 (岐阜県・飛騨市)
 レールマウンテンバイク「Gattan Go!!」
 ~自転車とレールで風になる~



<活動内容>
 平成18年に廃線となった町のシンボルともいえる「神岡鉄道」の鉄道遺産を自分たちの手で保存・活用できる様に、廃線となった線路の上を走る「レールマウンテンバイク」を開発・運営している。年間の利用客数は4万人を超え、周辺の観光地にも大きな経済波及効果を生み出している。また、旧神岡鉄道「おくひだ1号」帰還式等の各種イベントを開催している。平成29年には全国の廃線を活用した団体に呼びかけ、相互交流を目的とした「ロストライン協議会」を設立するなど、活動を全国に広げている。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク

No. 10 (岐阜県・美濃市)
 美濃和紙あかりアート展



<活動内容>
 うだつの上がる町並み一帯を活性化させるため、美濃市政40周年のタイミングで平成6年4月に活動を開始。1300年の伝統を有する美濃和紙による「あかりのオブジェ」を全国公募し、すべての作品(400~500作品)をうだつの上がる町並み(重要伝統的建造物群保存地区)に展示している。平成29年は約9万人の来場があった。海外や国内各地でも展示を行っており、また、「全国あかりサミット」の開催を提唱し、10年にわたり全国10箇所で開催した。その活動により全国との繋がりが生まれている。

<地域活動団体>
 美濃和紙あかりアート展実行委員会

No. 11 (京都府・福知山市)
 「雲原砂防イベント」
 (よみがえれ地域の力「探訪 雲原砂防」)



<活動内容>
 過疎少子高齢化が進む雲原川流域の地域住民や各種団体が集い、地域探訪ツアー(毎年)、ドラム缶転がしタイムレース(来場者:1000人)、砂防施設や寺院地域探訪ツアー(毎年:100名)、歴史的資産である「雲原砂防」を活かした地域づくりを展開。取り組みを通して住民の間でのコミュニケーションが密になり、若い女性が移住したり、Uターン者も出るなどの定住化にもつながっている。近年は取り組みを通じて「雲原ファン」が増え、力もあわせてイベントの企画運営をするなど地域外との交流が広がっている。

<地域活動団体>
 「雲原砂防イベント」実行委員会

No. 12 (京都府・長岡京市)
 京都おとくに地域の情報発信と魅力ある街づくり



<活動内容>
 「京おとくに観光文化検定」の受験者で市民活動団体を結成(2008年3月)。以後今日まで10年間、毎週月曜日を活動日として定期的に事業に取り組んでいる。西山古道の整備やハイキングマップの作成、平和の桜陽光桜の植樹(400本以上)をしてきた。西山古道は10年間定期的に整備・補修を続けており、今では関西でも屈指のハイキング道として多くのハイカーに楽しまれたり、「京都西山連峰トレッキングマップ」の販売は7000部を突破するなど、この地域の魅力PRIに貢献している。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人 京おとくに・街おこしネットワーク

No. 13 (島根県・出雲市、雲南市、飯南町)
 子ども達が取り組む河川環境保全活動から始まる地域づくり
 ～斐伊川・神戸川流域環境マップづくり～



水生生物調査の様子 **調査発表会の様子**

<活動内容>
 子ども達が育った川でのふるさと学習、環境学習を通じて、自然を理解し、環境保全に対する意識向上を図ることを目的とした活動を行うため、平成19年に会を設立。現在の会員数は、31名。
 毎年、河川調査指導者の育成を目的とした指導者研修会(5月)、各学校の調査を6月～10月の期間で行い、調査の成果発表会を11月～12月で行なっている。調査結果は、web-GIS地図で公開することで、多くの県民の関心を高めることが期待でき、データを蓄積することで、基礎データとして利用できる。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人しまね体験活動支援センター

No. 14 (岡山県・玉野市)
 宇野港を舞台とした玉野の賑わいづくり
 ～UNOICHI 海が見える港のマルシェ～



マルシェイベントの様子 **ボランティアスタッフの高校生**

<活動内容>
 かつて「四国への玄関口」として栄えた宇野港の活気を取り戻し、「海と港のまち玉野」として活性化を図るため、平成26年からマルシェイベントを中心に季節ごとに年4、5回のイベント開催を実施している。特に多くの高校生がスタッフとして参画し、若者の感性により工夫を凝らして海と港の魅力を伝えており、開催規模にもよるが、最大で13,000人が訪れるなど直島等のアート鑑賞に訪れる観光客や、地元住民にも徐々に評判が浸透し、港周辺地区の賑わい創出と、新たな地域文化の醸成に大きく寄与している。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人 UNOICHI 実行委員会

No. 15 (徳島県・三好市)
 地域の駅から世界の大步危駅へ



様々な取組が生み出される「キッチン会議」 **大步危駅の桜の植樹**

<活動内容>
 平成22年10月に無人化されたJR大步危駅に賑わいを取り戻そうと、同年11月に協議会を設立。地域の方が意見交換する「キッチン会議」で様々なアイデアを出し合い、駅構内や周辺の清掃活動や桜の苗の植樹、桜のライトアップ等を行っている。また駅事務所を休憩所兼観光案内所に改装したほか、観光情報が入手できるよう、インターネット環境を整備した。駅利用者は、平成22年の約2万5千人から、平成30年には約4万人に増加する見込みであり、活動の結果、駅の利便性の向上や地域の活性化に寄与している。

<地域活動団体>
 JR大步危駅活性化協議会

No. 16 (大分県・日田市)
 上下流の人々をつなぐ筑後川源流の保全活動
 ～植樹交流で下釜ダム湖のある地域を心の故郷へ～



植樹による環境保全活動 **第30回「蜂ノ巣湖桜まつり」**

<活動内容>
 高齢化や人口減少による生活の不安が深刻化する中、「地域を自分たちで守っていこう」との思いから、ダム湖畔の地域資源を活かした取り組みがスタートした。地域住民主体で「蜂の巣湖桜祭り」を30年継続しており、受益地と水源地の地域を越えた上下流交流により水の大切さを子供たちに継承している。また、これまでに地域住民と市内外の4,000人もの手により、山桜など約800本の植樹や竹林の整備、草刈りや間伐等の管理を行うなど、筑後川源流における交流は子供たちの心の故郷にも繋がっている。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人下釜ダム湖と森の会

No. 17 (大分県・豊後高田市)
 花とアートの岬「香々地」
 ～長崎鼻を守るため海と花の景観を創出～



市道から見るひまわり畑 **ボランティアと子ども達による種まき**

<活動内容>
 長崎鼻へ向かう市道沿線の耕作地が何年も手つかず荒れ果てた状況の中、「菜の花やひまわりによる景観を創出し地域の活性化に繋がりたい」という思いをもつ有志5人により活動を開始。開墾面積は約10年間で165,000㎡と当初の50倍の面積まで広がっており、花の種まきは子ども達や自治会と協力して行い、世代間の交流、情操教育へと寄与している。可能な限り行政に依存することなく活動を継続するために試行錯誤しながらはじめた搾油事業は、雇用創出にも繋がり地域の活性化に寄与している。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人 長崎鼻B・Kネット

No. 18 (宮崎県・宮崎市)
 大塚台団地の里山再生
 ～荒れ果てた都市部の里山再生～



散策道 整備作業の様子 **里山産物の食材を使った会食**

<活動内容>
 「貴重な里山を有効活用して後世に残したい」という思いで、団地造成後荒れ果てていた都市部の緑地帯を里山として再生するため、平成19年に当会を設立。自らの手で高低差の厳しい緑地帯に6本の散策道を整備し、月1回の草刈りなどの維持管理を行い、作業後には里山の産物を食材に使った料理で会食するなど、楽しく継続できるように工夫を凝らしている。里山再生を通じて、高齢者の閉じこもり防止や子供たちが自然と触れ合う機会の創出など、地域コミュニティづくりに貢献している。

<地域活動団体>
 大塚台緑地林里山整備実行委員会

平成30年度手づくり郷土賞【一般部門】 選定案件概要（全20件）

No. 19 (宮崎県・延岡市) 川坂湿原を生かした地域おこし ～霞堤とともに歩む～



<活動内容>

「湿原をはじめとした里地・里山の素晴らしい自然環境と地域の宝を守り、次の世代に引き継いでいこう」という思いを持った有志3人が発起人となり、平成22年の設立より、湿原の維持管理や有害獣対策の地道な努力を続け、絶滅危惧種であるオグラコウホネが群生され、その規模は日本最大級となっている。「川坂湿原保全プロジェクト」では、地区外を含む若者ボランティアが300人参加し、地域全体で活動が活発化している。霞堤内湿原である地理的ハンディを前向きに捉えた「共生」を図る地域おこしである。

<地域活動団体>

川坂川を守る会

No. 20 (宮崎県・串間市) 旧吉松家住宅を中心とした大正ロマンのまちづくり ～レトロ路面電車でまちをつなぐ～



<活動内容>

商店街の衰退や人口減少により、市中心部の賑わいが失われつつある中、「大正ロマンのまちづくり」を進めたいとの思いから平成25年に当会を設立。賛同した市民等の募金によりレトロ路面電車を串間駅前広場に設置し、300名が参加したミュージックフェス、「つながるマルシェ」等、多彩なイベント実施による賑わいの創出や、県境を越えた地域交流、観光周遊の効果も生んでいる。旧吉松家住宅周辺での草刈りや清掃活動、高校生まちづくり研修会の開催等により市民のまちづくりへの意識向上に寄与している。

<地域活動団体>

くしままちづくり協議会

平成30年度手づくり郷土賞【大賞部門】 選定案件概要（3件）

No. 1 (北海道・小樽市) 小樽雪あかりの路



<活動内容>

厳寒地の冬の夜という、従来では観光資源として考えられなかった要素に注目し、寒いからこそ感じられる北の旅愁、人の温もりを伝える「静のイベント」として、延べ12万本のキャンドルの灯りが歴史的遺産である小樽運河など街の夜を演出するイベントを開催。

地域資源を活用することで地域住民の郷土愛が醸成され、海外ボランティアが小樽の魅力を自国で発信することで国際的な観光PRにも繋がっている。また、冬場の宿泊客数の増加、通過型から宿泊滞在型への移行、地域経済の活性化などにも寄与している。

<地域活動団体>

小樽雪あかりの路実行委員会

No. 2 (三重県・伊勢市) 伊勢河崎・町並みと川を生かしたまちづくり ～伊勢河崎商人館を核とした暮らしのデザイン～



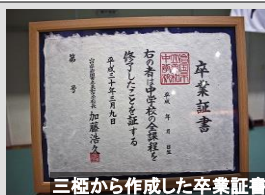
<活動内容>

川沿いを含む町全体の景観保全に取り組み、地域資源を活かそうと平成10年10月に活動を開始。300年以上続いた酒問屋の保存と活用を目的に「伊勢河崎商人館」を修復し、そこを拠点とした活動をしており、地域にも広く開放し地域に密着した活動を実施している。地域住民等が参加する「だいでこ市」は平成14年から183回、「河崎商人市」は平成13年から18回開催している。100名規模の茶会の開催、100年以上前の「エスサイダー」の復刻と商品化・販売を行い、活動を発展させながら継続させている。

<地域活動団体>

特定非営利活動法人 伊勢河崎まちづくり衆

No. 3 (山口県・岩国市) 蘇った歴史の道 岩国往来



<活動内容>

岩国往来は約30キロの街道で、近年は人が歩くこともできなかったが、平成18年度より沿道地域住民(岩国往来まちづくり協議会)が岩国往来を調査、復元しました。岩国往来の整備により発生した間伐材を活用した、駕籠立場や案内板の設置等。復元した岩国往来を活用し、岩国往来ウォーキング、中学生が飛脚箱をリレーする飛脚リレー等のイベントを実施。近年、三極の植樹・刈り取り、和紙作成を中学生と協働で実施し、完成された和紙で卒業証書を製作する等、地域活性化に寄与しています。

<地域活動団体>

岩国往来まちづくり協議会



全国の地域づくりに
関心のある方へのメッセージ！
ふるさと

手づくり郷土賞 受賞記念発表会

グランプリ 2018



入場無料

定員 200名

※参加申し込みは裏面を
ご覧ください。

平成30年 12月16日(日) 12:30~16:10

会場

東京国際交流館 プラザ平成 国際交流会議場

東京都江東区青海2-2-1

手づくり郷土賞の受賞者からグランプリを選出

第33回手づくり郷土賞の受賞者からグランプリを選出します。
地域の自然、歴史、文化を生かした、全国の優れた取組状況を知
ることで、私たちの「郷土(ふるさと)」のあり方や将来を考えてみ
ませんか。

手づくり郷土賞発表会の特徴

選定団体が一堂に会しプレゼンテーション(発表3分、質疑3分)
を行い、その中から、部門別にグランプリを選出します。
また、Facebookでも情報発信します。

<https://www.facebook.com/milt.tedukuri/>



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

全国の地域づくりに
関心のある方へのメッセージ!

ふるさと 手づくり郷土賞 受賞記念発表会

グランプリ 2018

日時 平成30年 12月16日 日 12:30~16:10



スケジュール

- 開会
- 選定団体によるプレゼンテーション(発表3分/質疑3分)
- グランプリの発表
- 閉会

お申込み方法

下記のサイトより参加申し込みをお願いします。こちらのQRコードからもアクセスできます。▶▶▶

<https://www.vmi.co.jp/jpn/consulting/seminar/2018/furusato2018.html>



なお、国土交通省の記者発表資料をご覧になりたい方は右記サイトをご覧ください。https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000204.html

お申込み締切

平成30年12月10日(月)17時
定員/200名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

開催会場

東京国際交流館 プラザ平成
3階 国際交流会議場
所在地/〒135-8630 東京都江東区青海2-2-1

アクセス/ゆりかもめ「船の科学館」東出口 徒歩約3分
りんかい線「東京テレポート」B出口 徒歩約15分

お問い合わせ先

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課
メール: tedukuri@mlit.go.jp FAX:03-5253-1551

※送信するメールの件名は、
「手づくり郷土賞受賞記念発表会 2018 の問合せ」としてください。



手づくり郷土(ふるさと)賞については、情報発信を行っています。是非ご覧ください。

手づくり郷土賞ホームページ

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/index.html>
これまでの受賞団体の成果をご覧いただけます。

◆手づくり郷土賞の概要

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰制度。平成30年度で33回目。

【一般部門】

はじめて「手づくり郷土賞」の受賞を目指す団体から表彰

【大賞部門】

過去に「手づくり郷土賞」を受賞し、その後の活動が拡充した団体を表彰

(参考) 平成30年度手づくり郷土賞応募要領は以下のURLをご参照ください。
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/entry/boshuu/bosyu.pdf>

◆手づくり郷土賞選定委員会

有識者からなる手づくり郷土賞選定委員会により、幅広い観点から審査し選定します。

手づくり郷土賞選定委員会（平成30年度）

委員長	鈴木 伸治	横浜市立大学国際総合科学部 教授
委員	河野 まゆ子	株式会社JTB総合研究所 主席研究員
委員	関 幸子	株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役
委員	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長
委員	平野 龍平	富士急行株式会社 社長室アドバイザー
委員	福井 恒明	法政大学デザイン工学部 教授

(敬称略)